

トビウオ通信 (H21 第 7 号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)
<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 20 年漁期の底びき網漁業の動向》

小型底びき網 1 種漁業 (かけまわし)

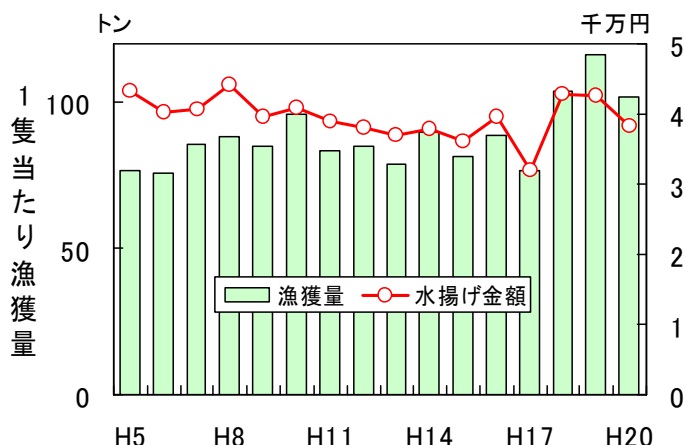


図 1 小型底びき網漁業における 1 隻当たり漁獲量と水揚げ金額の経年変化

1 隻あたり漁獲量・金額、前漁期を下回る！

島根県の小型底びき網 1 種漁業 (かけまわし) 55 隻*の平成 20 年漁期 (平成 20 年 9 月 1 日～平成 21 年 5 月 31 日) の総漁獲量は 5,594 トン、総水揚げ金額は 21 億 459 万円でした。1 隻当たり漁獲量 (以下 CPUE) は 102 トン、水揚げ金額は 3,855 万円で、いずれも前漁期を下回りました。また、平年 (過去 10 ケ年平均値; 90.0 トン、3,855 万円) と比べ、漁獲量は 13% 上回りましたが、金額は平年並みとなりました (図 1)。

* 当漁業における島根県全体の操業隻数は 56 隻ですが、統計は 55 隻分の集計です。

ソウハチ好調！

ソウハチの CPUE は 24.2 トンで、前漁期を下回りましたが、平年を 33% 上回りました。特に冬以降本種への依存度が高くなり、全漁獲の 4～6 割を占めました。ムシガレイの CPUE は平年並みの 4.7 トンでした。また、ヤナギムシガレイの CPUE は前漁期・平年を 29% 下回る 1.2 トン、メイトガレイの CPUE は 0.5 トンで前漁期の 2 割、平年の 3 割の漁獲に留まりました。

ケンサキイカ前漁期上回る

ケンサキイカの CPUE は 2.3 トンで、不漁であった前漁期を上回りましたが、平年の 8 割の漁獲に留まりました。また、ヤリイカの CPUE は 1.9 トンで、平年を 8% 上回りました。

アカムツ好調！、アンコウ低調！

ニギスの CPUE は 15.2 トンで、前漁期を 18%、平年を 44% 上回りました。キダイの CPUE は 5.0 トンで平年を 15% 下回りました。近年漁獲量が急増したアンコウの CPUE は 7.4 トンで、前漁期の 6 割の漁獲に留まりましたが、平年並みの漁獲がありました。アカムツの CPUE は 2.7 トンで、前年の 1.8 倍、平年の 1.4 倍の漁獲がありました。

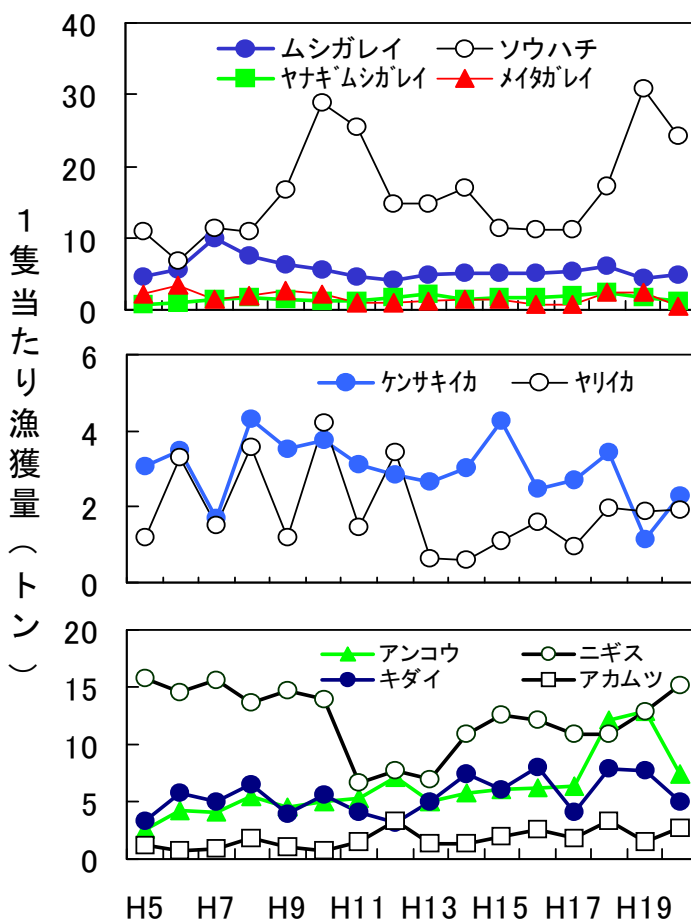


図 2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向

沖合底びき網漁業(2そうびき) (県西部)

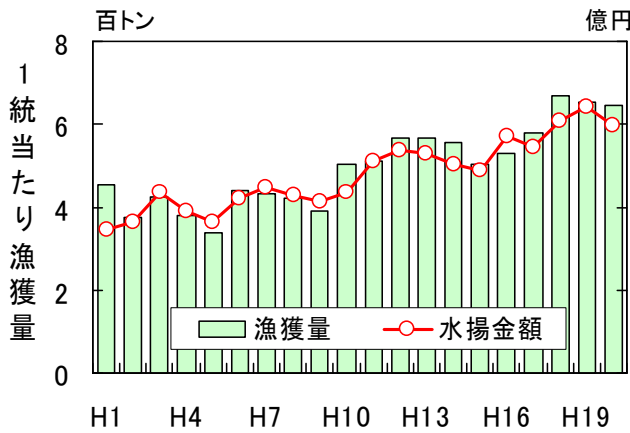


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当たり漁獲量・水揚金額の動向

1 統当たり漁獲量・金額、平年を上回る！

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（操業統数 5 ケ統）の平成 20 年漁期（平成 20 年 8 月 16 日～21 年 5 月 31 日）の総漁獲量は 3,239 トン、総水揚金額は 14 億 9,335 万円でした。また 1 統当たりでは、漁獲量 648 トン、水揚げ金額 2 億 9,867 万円で、前漁期を僅かに下回りましたが、平年（過去 10 年平均値 564 トン、2 億 6,857 万円）を 1 割程度上回りました。今期は、大型クラゲの来遊が見られなかったため、前半は順調に経過し、ムシガレイ、ケンサキイカが好調に推移しました。また、前漁期の量には及ばなかったものの、2～3 月にマフグがまとまって漁獲されました。

ムシガレイ;S61 年以降最高の漁獲！

主要魚種であるムシガレイの CPUE は 112 トンで、前漁期を 19%、平年を 47% 上回り、昭和 61 年以降最高の漁獲となりました。一方、ソウハチの CPUE は 59 トンで、前漁期を 18% 下回りましたが、平年を 32% 上回りました。またヤナギムシガレイの CPUE は 18 トンで、前漁期を 36%、平年を 14% 下回りました。このほか、2～3 月にヒレグロがまとまって漁獲(137 トン、CPUE ; 27 トン)され、H5 年以降最高の漁獲となりました。

ケンサキイカ、秋漁は好調であったが...

ケンサキイカの CPUE は 38 トンで、前漁期の 2.2 倍の漁獲がありましたが、平年の 85% の漁獲に留まりました。秋漁は 10 年ぶりに好調に推移しましたが、春漁は不調であり、4 年連続低調に推移しました。一方、ヤリイカの CPUE は 5 トンで、前漁期の 69%、平年の 70% の漁獲に留まりました。

アカムツ好調！

アナゴの CPUE は 35 トンで、前漁期を 28% 上回りましたが、平年をやや下回りました。アンコウの CPUE は 34 トンで、前漁期を 33%、平年を 7% 下回り、2 年連続の減少となりました。またキダイの CPUE は 33 トンで、前漁期を 10%、平年を 12% 上回りました。

一方、アカムツの CPUE は 20 トンで、前年の 2.2 倍、平年の 1.4 倍の漁獲がありました。特に 3～5 月にかけて小型魚(メッキン)がまとまり、漁獲増の要因となりました。

この他、冷水性のマダラが 12 月(30 トン)に、ニシンが 3 月(33 トン)にまとまって漁獲されたことも特徴的でした。また、前漁期豊漁であったマフグも 2～3 月にかけてまとまって漁獲されました。

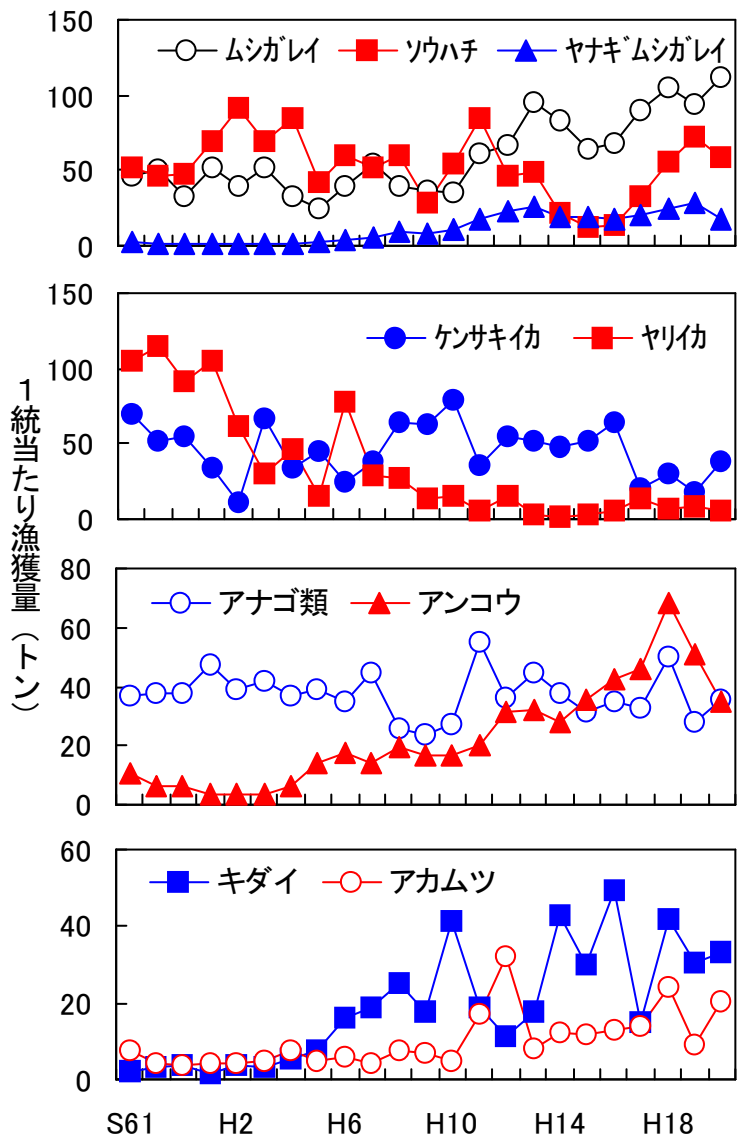


図4 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向